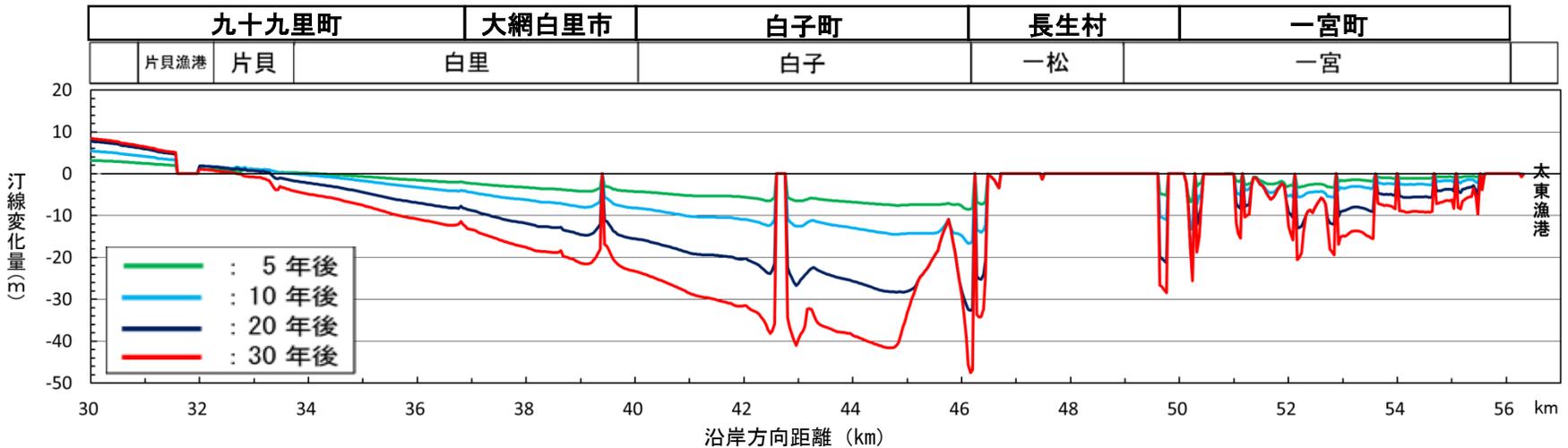
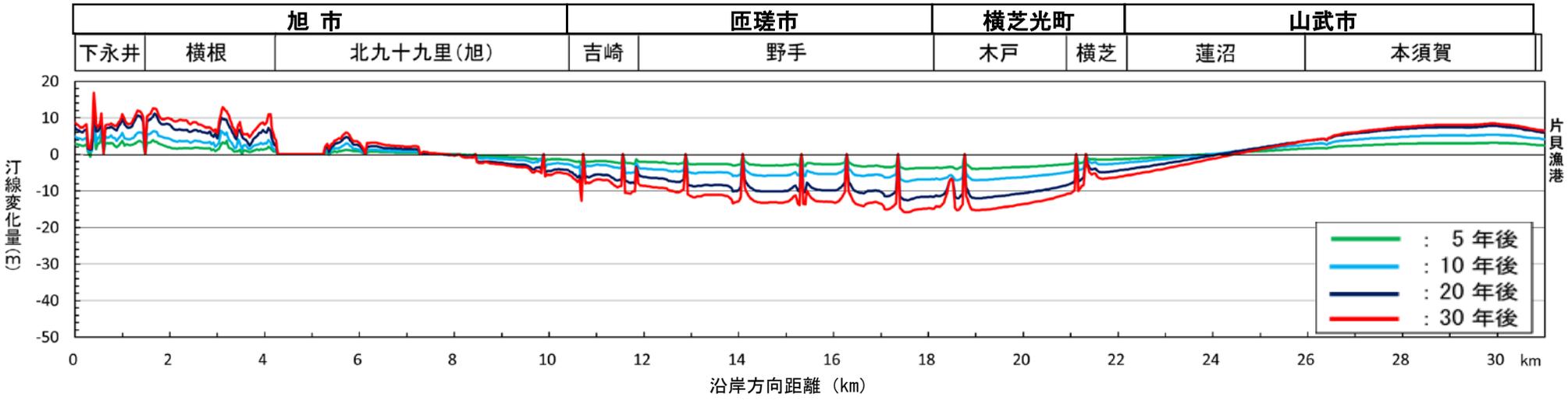


# 2. 今後に予想される九十九里浜の状況について

## (1) 今後の侵食予測 ①-1 養浜なし・地盤沈下1cm/年の場合の汀線変化量

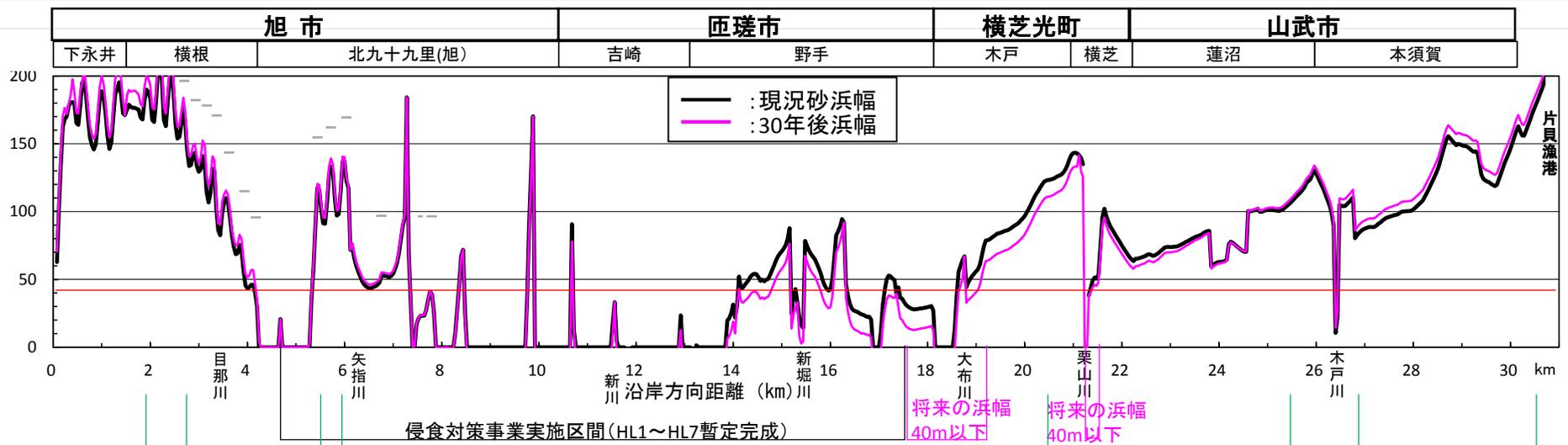
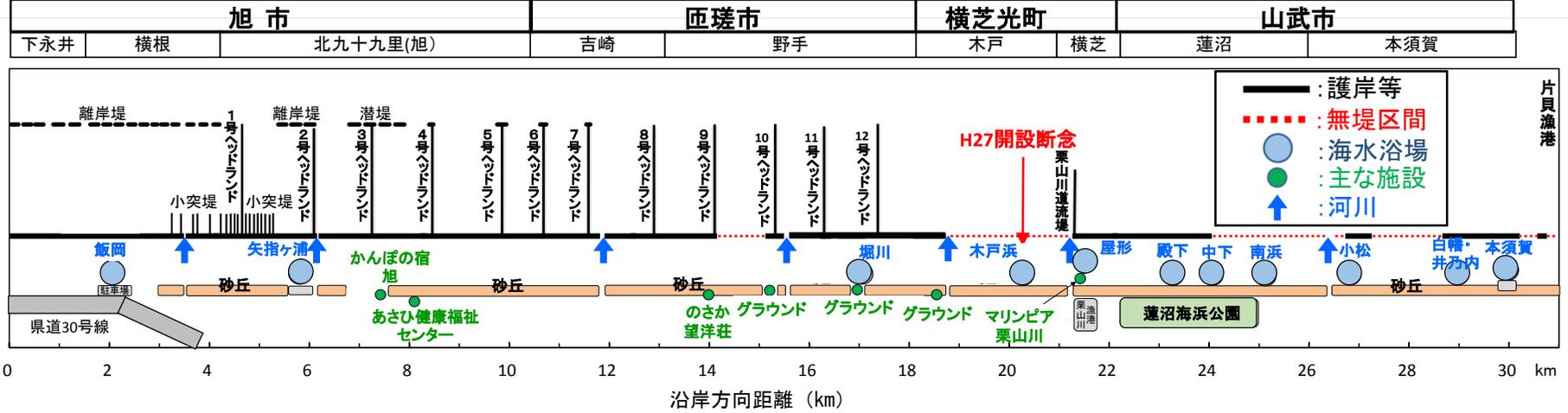
- ・北九十九里浜の野手海岸と木戸海岸では30年後には最大15m程度の汀線後退が生じることが予想される。
- ・南九十九里浜では、ほぼ全域で汀線後退が生じ、白子海岸では20～50mの汀線後退が生じることが予想される。



# 2. 今後に予想される九十九里浜の状況について

## (1) 今後の侵食予測 ①-2 養浜なし・地盤沈下1cm/年の場合の砂浜幅の変化(北九十九里)

(a) 海岸保全施設および背後地の主な施設の配置



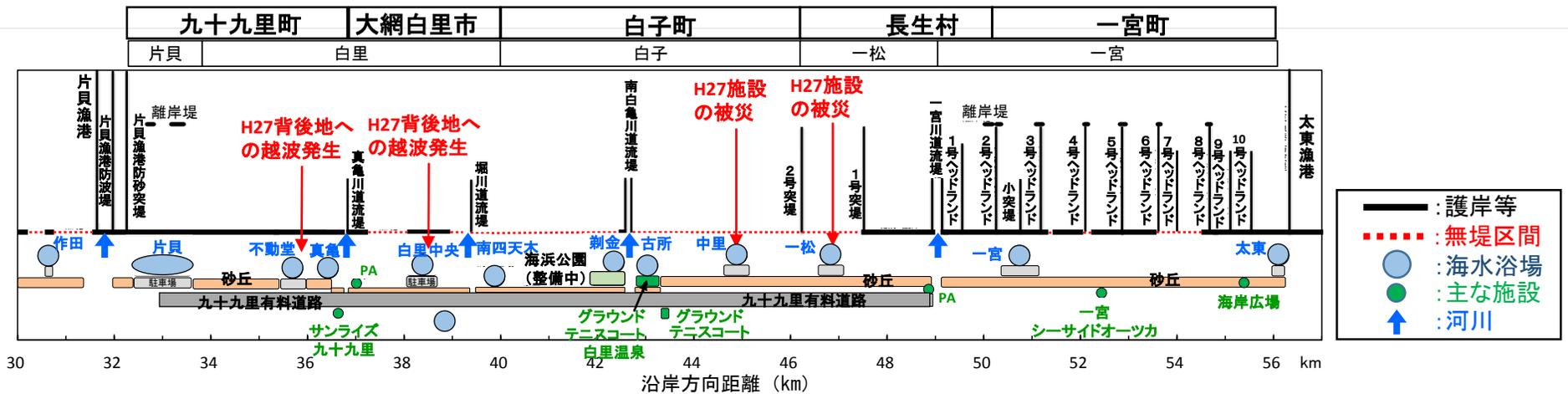
砂浜の需要・海岸利用が高い区間

砂浜の需要・海岸利用が高い区間

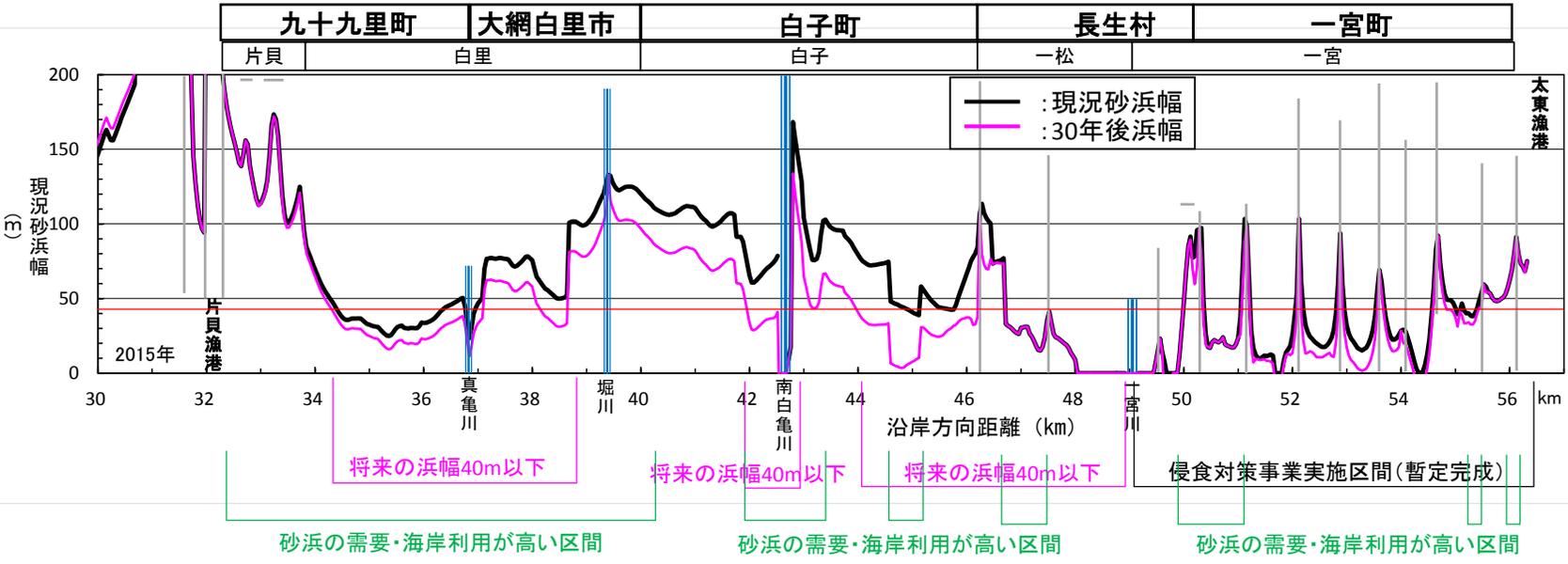
# 2. 今後に予想される九十九里浜の状況について

## (1) 今後の侵食予測 ①-3 養浜なし・地盤沈下1cm/年の場合の汀線変化量(南九十九里)

(a) 海岸保全施設および背後地の主な施設の配置



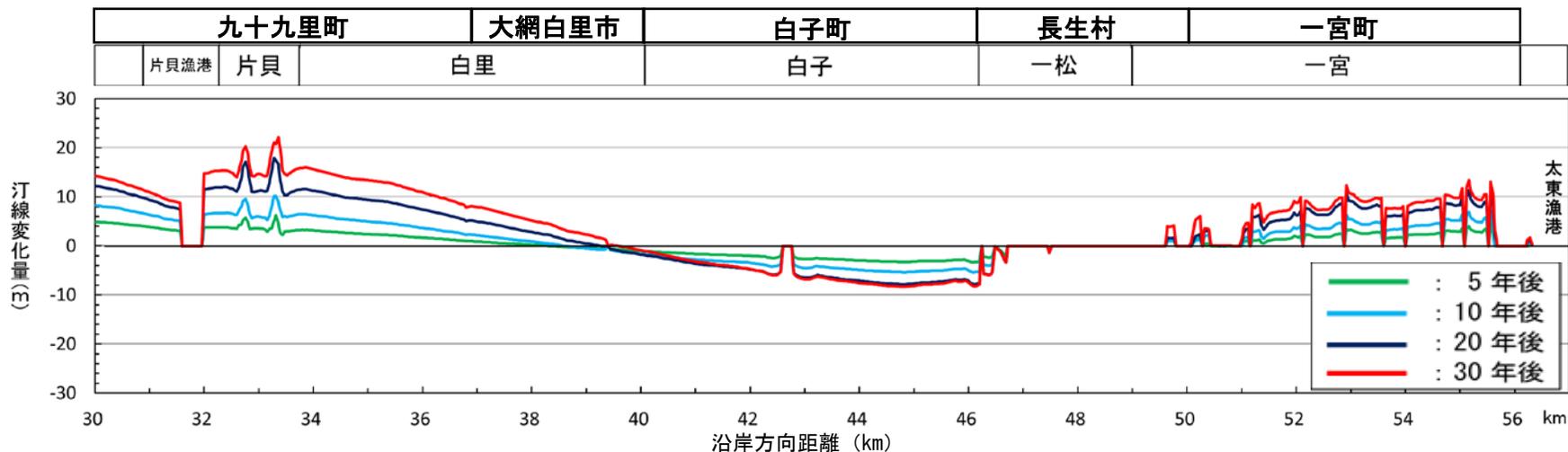
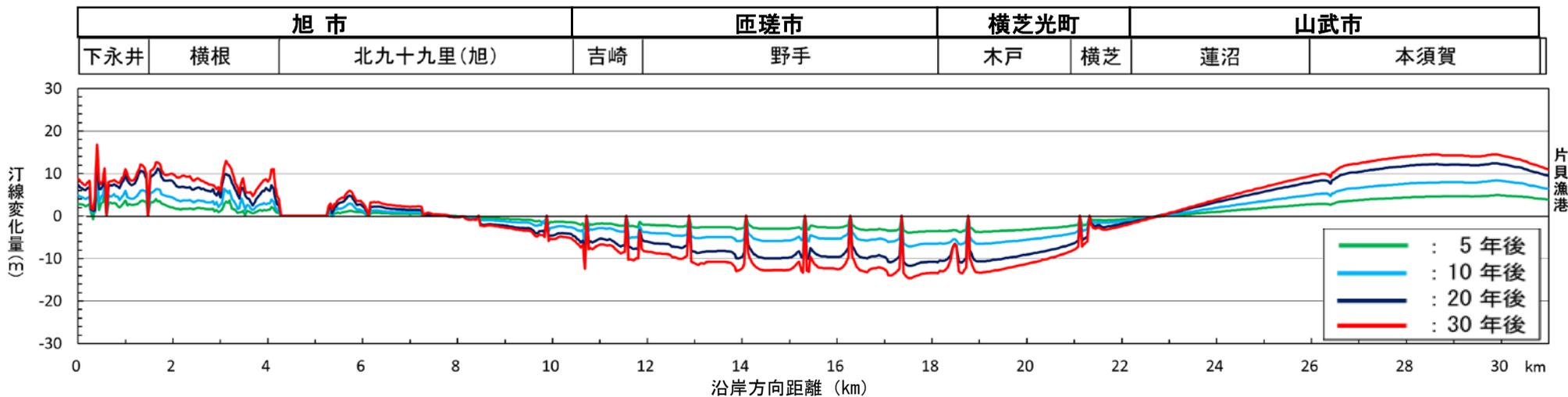
(b) 2015年1月および2045年(30年後)の砂浜幅



## 2. 今後に予想される九十九里浜の状況について

### (1) 今後の侵食予測 ②養浜なし・地盤沈下なしの場合の汀線変化量

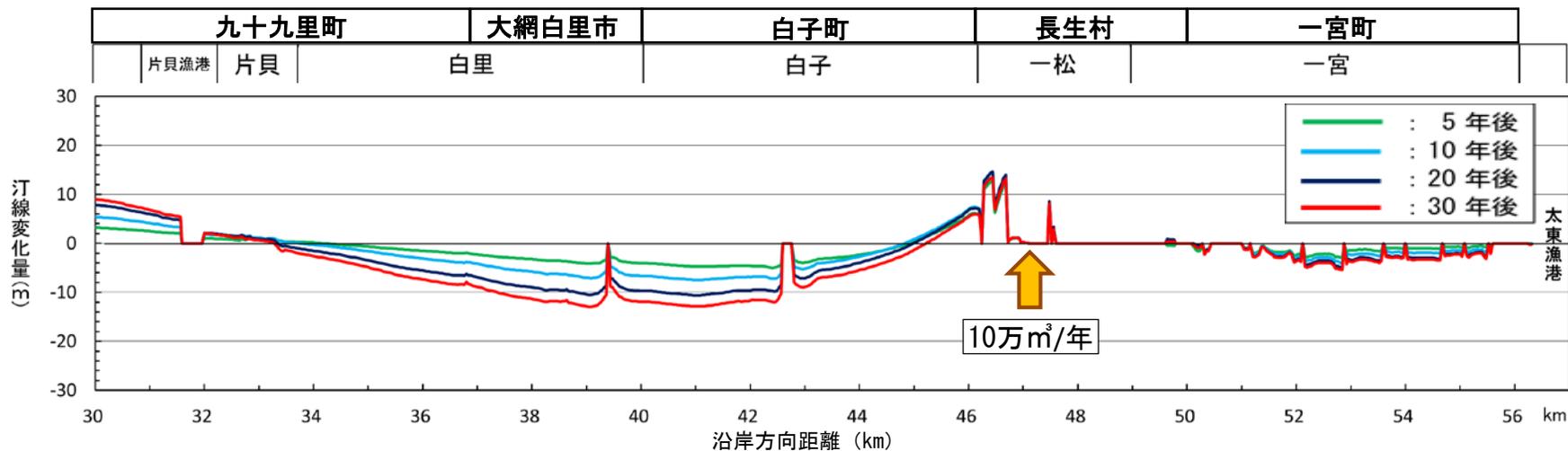
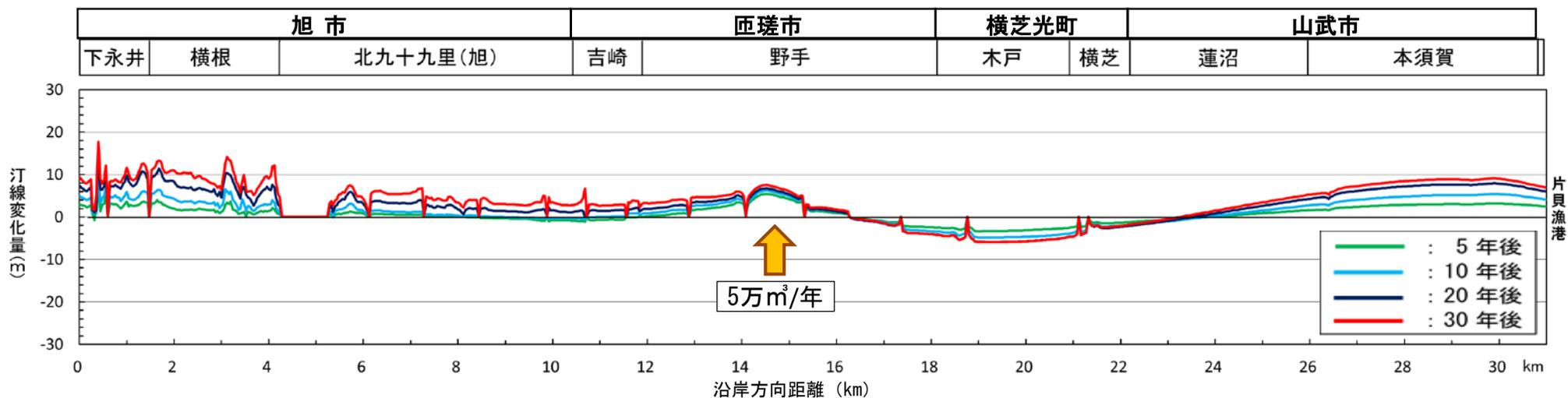
- 北九十九里浜では蓮沼海岸以南の汀線が大きく前進するが、野手と木戸の汀線は10m程度後退する。南九十九里浜では白子海岸の汀線後退量は10m未満となり、他の海岸では汀線が前進する。
- 南九十九里浜では、「養浜なし、地盤沈下1cm/年」の場合と比べ、汀線後退（侵食）が大幅に減少する。



## 2. 今後に予想される九十九里浜の状況について

### (1) 今後の侵食予測 ③大規模養浜(北5万・南10万 $m^3$ /年)・地盤沈下1cm/年の場合の汀線変化量

- 北九十九里浜では、木戸海岸付近を除いて汀線が前進し、木戸海岸の汀線後退量も5m未満となる。
- 南九十九里浜では、10万 $m^3$ /年の養浜を実施しても、片貝漁港への土砂移動等により白里海岸と白子海岸では汀線の後退が生じる。ただし、汀線後退量は15m未満である。



## 2. 今後に予想される九十九里浜の状況について

### (2) 侵食対策事業の課題

土砂供給量の絶対的な不足等の要因により、未対策区間では侵食による浜崖の発生が増加しており、このままでは、九十九里浜全域での更なる海岸侵食が進行する。

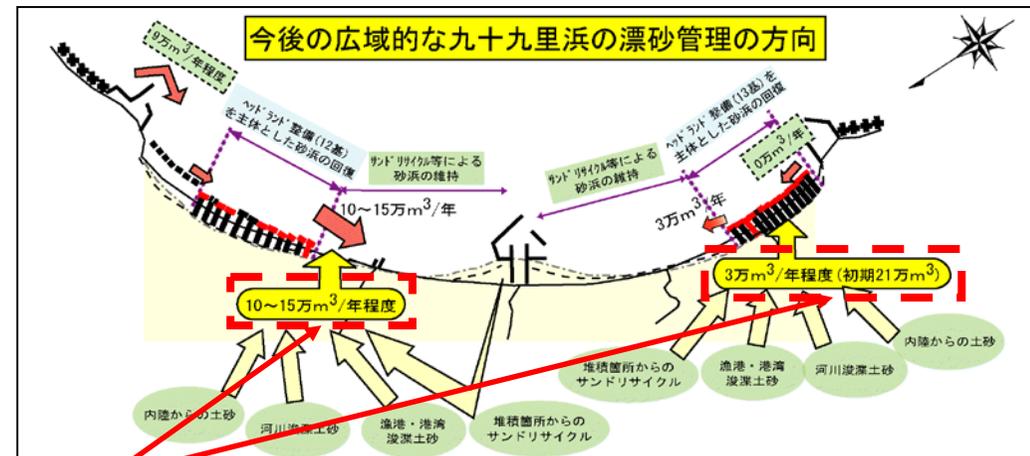
#### 【海岸侵食にかかる検証結果（シミュレーション結果）】

- ・ 養浜なし、地盤沈下年間1cmとすると、九十九里浜全体で毎年約1haの砂浜面積が減少。
- ・ 養浜なし、地盤沈下年間1cmとすると、30年間で砂浜幅が最大40m後退する箇所も発生。

#### 【対策実施上の課題等】

・ 千葉東沿岸海岸保全基本計画での養浜量が年間13万 $m^3$ ※に対し、年間実施量は2万 $m^3$ にとどまっている。

・ ヘッドランド整備済の区間では沿岸漂砂量（砂が沿岸方向に移動する量）が減少し、ヘッドランド群の漂砂下手側（片貝漁港側）では侵食が生じている。



※北九十九里10万 $m^3$ +南九十九里浜3万 $m^3$ =全体13万 $m^3$ より

千葉東沿岸海岸保全基本計画（P4-3）  
《九十九里浜の砂浜の保全計画》より